

## 高等学校での教育・学習の今を知る ～府大生はどのように学んできたのか

高等教育推進機構FD委員長 深野 政之

日時：2018年9月19日（水）15:00～17:00

講師：瀧上健一先生（大阪府教育センター指導主事）

服部恵美先生（大阪府教育センター指導主事）

現在、高校では2022年から施行される新学習指導要領に向けて、教員研修等の様々な準備をされています。また2020年度から導入されるセンター入試に代わる新テストに向けて、大学入試改革も待たなしの状況です。高校教育の改革、大学入試改革と合わせて大学教育の改革が求められていますが、これまで大学、そして大学教員は、高校教育に対して関心が薄かったという反省があります。

そこで大阪府立大学にも多くの卒業生を送り出している大阪府立高校の最新情報を得るために、大阪府教育センターの協力を得て、理科と数学の指導主事の先生からお話を伺うことにしました。

## 【瀧上先生：数学】

まず高等学校数学科の学習指導要領の変遷を概観した後、現行指導要領（2012年改訂）で追加された内容と削除された内容について説明があった。さらに2022年から実施される新指導要領について各科目の内容と履修方法について、特に各科目において数学的活動の充実、課題学習、統計的な内容の充実が図られることが強調された。

府立高校における数学の授業実践の例として、知識構成型ジグソー法が取り入れられていることの紹介があり、芦間高校での授業映像（研修資料・非公開）を見せていただいた。ただしこうしたグループワーク等を取り入れた授業を実践している高校はまだ少なく、多くの高校で講義主体の授業が行われているため、アクティブラーニングを取り入れた授業法の研修に取り組んでいるとのことであった。

## 【服部先生：理科】

まず理科の科目編成の変遷をたどった後、生物分野の重要語の数の変化が示された。暗記する必要がある用語が非常に多く、語呂合わせによる暗記術を教えるような授業も行われてきた。新指導要領では、生徒が主体となり探究する学習を充実させることが求められている。すべての科目の目標が【知識及び技能】【思考力、判断力、表現力等】【学びに向かう力、人間性等】の3つの観点によって記述され、科学的な見方・考え方を育成することが目的となるとのことであった。

豊中高校の授業映像（研修資料・非公開）が紹介され、グループ学習、回路の作製と実験、ホワイトボードでの発表という流れから「キルヒホッフの法則」を見出すことにより、主体的な学び、対話的な学びが行われ、深い学びに結び付けているとの説明があった。

なかもずキャンパスの参加者は57名、このほか大阪市大へ遠隔中継で15名が参加しました。

なお、当日の配付資料、PPT等は非公開となっております。

